

みんなの「なんな-の?」を伝えるこども記者のための新聞(毎月1回発行)



# 信毎こども記者ニュース

こども記者クラブ(信毎毎日新聞地域活動部) 〒380-8546 長野市南県町657  
TEL 026-236-3110 FAX 026-236-3193 電子メール t-chiiki@shinmai.co.jp

no.41

## 想像力が命! 脚本家の仕事を体験

さやくほんが しごと たいけん



**小林芽生**記者  
(上田市 5年)

作るのは  
**大変**

脚本家とは、アニメやドラマ、えい画の脚本を作る人のことです。一度に1つの仕事だけをするのではなく、多い人では、5本くらいを並行して書いています。実際に「な-のちゃん」と自分の会話を作っていました。私は、まほろしの花をさがしている「な-のちゃん」に、お花をあげる設定にしました。小林さんは、「な-のちゃんなら、どう言おうかなど、想像してみるといいよ」と教えてくれました。いつも見ているアニメやえい画ですが、作るのにはこんなに大変なんだと、おどろきました。

脚本家ってどんな仕事? 信毎こども記者クラブは10月6日、上田市の上田創造館で取材教室を開き、長野市出身の脚本家、小林雄次さん(33)＝東京＝に、脚本の構成や、作り方などを取材しました。な-のちゃんを「プロデュース」する体験では、1人ずつ、な-のちゃんの性格やせりふを考え、劇団員の岩間健児さん(32)＝長野市＝と演じてみました。

名刺交かん  
に長い列



「わくからはみ出したいと、いつもちがうジャンルや新しいことをやっていこうと思っています。そうじゃないと、成長しない気がするのです」  
「初めてでどうなるか不安だったけれど、個人的で面白いな-のちゃんが出てきて楽しかったです。今回やったことを、遊びや生活で思い出し、生かしていってね」  
小林雄次さん

みんな  
真げん!

脚本＝  
設計図

**西山真優**記者  
(長野市 3年)



みなさん、「きやく本」とはなんでしょう。実は、ぶたいやえい画など、えいぞう作品の設計図なのです。やく者さんが、どう動くか、何と言おうかなどをまとめていきます。でも、なぜ、きやく本がいるのでしょうか。それは、アドリフでさつえいしなら、つまかみあわず、ほつそつできないからです。「きやく本は、設計図」といった、小林さんは、かかやいて見えました。  
きやく本には、「柱」(場題)、「下書き」(やく者の動き、風景など)、「せりふ」の3つが書いてあります。キャラクターのせりふや、目ひょう、きめせりふなどを入れ、文章にするのはむずかしかったです。

「演じるのが大好きでやっています。書くこと、演じることの面白さが伝わったらうれしいです」  
岩間健児さん



**窪田由彦**記者  
(坂城町 1年)

ヒーロー好きに  
うれしい!

はじめて、こどもきやくクラブにさんかしました。ヒーローが好きなので、ほくもおはなしをかいてみたかったです。  
小林さんのおしごととは、アニメなどのおはなしをかくことです。プリキュアやギャバン、ウルトラマンなど、ほくが知っているアニメのおはなしをかいているひとにあえて、うれしかったです。  
おもしろかったのは、おはなしをつくらって、ほつびょうしたことです。ひとにみて、すこくちがいました。たいへんだったけど、たのしかったです。



一人ずつ演技中。  
どんな展開か  
ワクワク!



な-のちゃんのキャラクターやせりふを考え中。小林さんはこども記者席をまわり、声をかけたりしました